

- 東大阪市学校教育基本目標
すべての子どもに生きる喜びとあすをつくる力を
- 東大阪市学校教育重点目標
学校園の活性化と確かな学力の育成
総合的視点に立つ教育の推進、人間尊重に徹した人権教育の実践、
信頼に応える学校園経営、学校園・家庭・地域の協働

ものづくり体験教室

ものづくり教育支援事業は、東大阪市経済部モノづくり支援室・東大阪地域活性化支援機構(NPO 東大阪)に事業委託し「次世代を担う子どもたちに、ものづくりの啓発を推進する」を目標とし、現在 10 講座を開設しています。

キャリア教育の一環として希望小学校を対象に、地域の民間企業から講師を招き、ものづくり体験教室を実施しております。例年、希望が多く今年度も 28 校(5600 人あまり)の応募があり、その中から 28 校(4587 人)を対象として行われています。

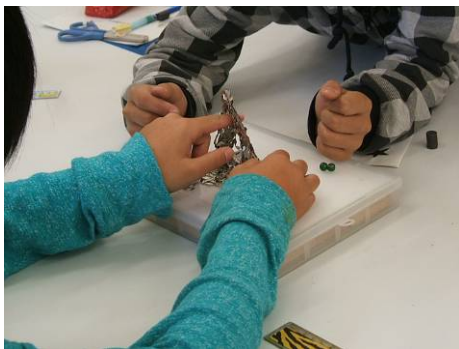
今回は、ものづくり体験教室の一部を紹介いたします。



今年度の実施講座 <全 10 講座>

- | | | |
|---------|---------|--------|
| ワイヤーアート | 木工・工芸 | 紙すき |
| 紙袋製作 | 磁石 | ねじ |
| 電気・光 | めっき・ダーツ | エコ製品 |
| | | 雛人形づくり |

ものづくり体験教室のはじめに、地域の民間企業の講師の方より、東大阪の「ものづくり」についてお話をいただいています。



<磁石>の講座・・・永和小学校

株式会社 下西製作所の方を講師にお迎えしました。日本一強力な磁石のお話や、磁石ねんどを使っての作品づくりを体験しました。また、磁気を見つけ出す用具をつくり、教室内の磁石を見つける学習など、たくさんの体験をさせていただきました。

磁石ねんどでタワーが出来た！

<磁石ねんどで作品をつくっている様子>

<紙袋製作>の講座・・・長瀬南小学校

講師としてザ・バック 株式会社より 3 人の方に来ていただき、紙袋の種類・作成の過程など、ていねいに説明いただきました。

講師先生の紙袋を解体しながらの説明で、大変わかりやすく紙袋の仕組みを理解することができました。仕組みを学習後、子どもたちは自分で紙袋を作成。おのおのがデザインした絵柄を描いてオリジナルの紙袋が完成しました。



<紙袋の種類など説明されている様子>

中河内地区三市（東大阪市・八尾市・柏原市）による授業改革実践交流会

12月24日（火）中河内地区三市合同の授業改革実践交流会「指導方法の工夫改善（少人数指導）部会」が八尾市役所内会議室で開催されました。毎年、習熟度別指導をはじめ、きめ細かな指導に取り組んでいる学校の実践を広く交流し、授業改革の一層の推進と充実を図るために、三市合同で行っているものです。本市からは、柏田中学校より報告がありました。

【東大阪市立柏田中学校による実践報告】

英語科における習熟度別少人数授業の指導方法について、生徒間で学び合える環境づくりや、お互いが交流できる授業の工夫など、具体的な指導を交えた報告がありました。

特に、コース毎の特徴づけは参加者の興味を引きました。ライティングの応用課題に取り組む「のびのびコース」に対して、「こつこつコース」では、デジタル教科書を活用して、まず英語を聞くことから始め、次にまねをして発音、そして書くという流れで丁寧に支援していく指導で、生徒の学習意欲を高める工夫として参加者にとって大いに参考となりました。



<教職員の感想（アンケートより）>

- ・ 実践発表はとてもわかりやすく、今後の参考にしようと思えました。今日発表された「こつこつコース」でのデジタル教材の導入、毎時間の授業記録は、これから本校でも実践していきたいと思えます。
- ・ 勉強が好き＝わかる＝楽しいという、プラスの連鎖になるように、私も努力していきたいと思えました。

やった！ できた！

学校教育推進室では、東大阪市療育センターと協力して下記の事業を行っています。

巡回相談

発達障害の診断を受けた子どもを対象に実施しています。巡回相談では、子どもの活動の様子を実際に参観し、個々の特性を活かしながら子ども自身が「やった！できた！」という実感が持てる指導方法や教材の活用方法を児童指導員（発達障がい支援センターPAL）の先生からのアドバイスをもとに、学校園の先生方や保護者とともに考えています。

ある学校での相談事例です。

相談者「子どもが自分の気持ちを伝えるにはどうしたらよいですか？」

児童指導員「本人が困っていることを周りが理解し、絵カードなど視覚的な方法で気持ちを伝えることにしてはどうでしょう。そして気持ちがうまく伝えられたときには必ずほめてあげてください。」

また、児童指導員の先生からは支援の必要な子どもだけでなく、全ての学級において子どもたちが過ごしやすい教室環境づくりや指示の出し方等についても助言をいただいています。

巡回指導

主に肢体不自由の子どもを対象に実施しています。各学校園で取り組んでいる支援内容について、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の先生方が訪問し、ともに考え、助言を行っています。身近な物で子どもに合わせた教材・教具（鉛筆・スプーンを持つ補助具、書面台、椅子の手すり、足置き台など）を作ることで、子どもたちが自分の力でできることが少しずつ増えていきます。支援学級や通常学級での肘の位置や机椅子の高さの微調整など、ほんの少しの工夫で、子どもたちが「やった！できた！」と実感できる環境をつくることができます。

今後も子どもたちの障害の状況、ニーズに応じた支援を充実させるために、これらの事業を有効活用ください。

